

開 会

水羽信男：

今日、司会を担当します広島大学総合科学研究科の水羽です。今回は広島中国近代史研究会の例会として、曾田先生のご著書『中華民国の成立と大正初期の知識人』の合評会を企画しましたが、これからの予定を簡単に説明したいと思います。まず布川先生から今回の合評会の趣旨説明をしていただき、それから学習院大学の千葉先生に日本史の立場からの書評を、また中国史に即しては金子肇先生に書評をお願いしています。その後、布川先生に改めてコメントしてもらいます。これらに対して、曾田先生にリプライをしていただき、全体討論へ入っていこうと考えております。

レジメの方は A3 が 2 種類、金子先生と布川先生です。A4、1 枚これが千葉先生です。みなさんお手元の方にありますでしょうか。

なお、今日の例会はどういう形になるかははっきりしませんが、公刊するために録音させていただこうと思っております。この点、事前をお願いいたします。また途中で盧涛先生が適宜写真をとられると思います。こちらは華僑華人総会の機関紙の方に掲載されます。

今日はいろいろな方が来てくださっていて、コンパで紹介をと思いますが、お一人だけ一番遠方から来てくださった笹川さん、東京から来てくださったので一言、お願いします。

笹川裕史：

上智大学の笹川と申します。今日は曾田先生の憲政に関わる 2 冊目の本ということで大変楽しみにして参加させていただきます。それと、この研究会で特に特徴的なことは、中国近代史だけではなく、日本史の研究者も参加して活発に議論をされるということです。じつは、東京で中国基層社会史研究会というものをやっております、その時もやはり日本史の研究者とのセッションを一つのメインとしてやっております。そういう意味で憲政とか基層社会とか少しテーマがズレますが、同じような志向性をもっているということで、今後こういう形で日本近代史と中国近現代史とが合同で議論ができるような場が東京でも広島でも広がっていくことを楽しみにしております。以上です。

水羽信男：

ありがとうございます。では先ほど紹介しましたタイムテーブルに従って今から合評会を進めていきます。布川先生の方からまず趣旨説明をお願いします。